

ハートフルなんぶ

2026. 3月号 vol. 324

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

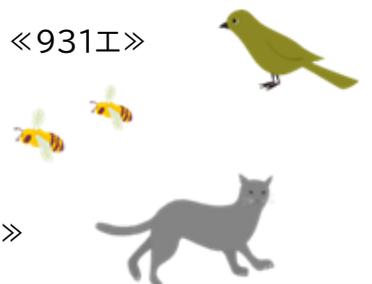
3月の 新刊案内

- 『叫び』 畠山 丑雄／著 新潮社 <Fハ>
『あいつらの末路』 真梨 幸子／著 KADOKAWA <Fマ>
『やっぱり犬は知っている』 大倉 崇裕／著 <Fオ>
『八州の風手控え帳』 あさの あつこ／著 文藝春秋 <Fア>
『被告人、AI』 中山 七里／著 小学館 <Fナ>
『生きとるわ』 又吉 直樹／著 文藝春秋 <Fマ>
『グレタ・ニンプ』 綿矢 りさ／著 小学館 <Fワ>
『春かずら』 澤田 瞳子／著 幻冬舎 <Fサ>
『ウチの共有不動産揉めてます!』 桂 望実／著 KADOKAWA <Fカ>
『冷蔵庫婆の怪談』 大島 清昭／著 東京創元社 <Fオ>
『ChatGPTはどのように動いているのか?』 中西 崇文／著 翔泳社 <007ナ>
『人生が生きやすくなる「性格」の話』 小塩 真司／著 清流出版 <141オ>
『古代ローマの教科書』 田中 創／監修 ナツメ社 <232コ>
『失敗マップのすすめ』 飯野 謙次／著 日経BP <336イ>
『ゆるっとひと皿ごはん』 橋本 紗和／著 Gakken <596ハ>
『日本全国かわいい美術館の旅』 宝島社 <706ニ>
『人にちょっと話せるようになる「昆虫学」』 盛口 満／著 ベレ出版 <486モ>
『素晴らしきレトロケーキの世界』 中田 ぶう／著 光文社 <588ナ>
『お野菜ときめきトリセツ』 安井ファーム／著 KADOKAWA <626ヤ>
『ピクトでわかるほぼすべての行動の英語図鑑』 ソ ヨンジョ／著 日本実業出版社 <834ソ>



3月のテーマ 「生き物」

- 『ホモサピのいきもの調査報告書』 ホモサピ／著 KADOKAWA <460ホ>
『たくましくて美しい淡水生物図鑑』 関 慎太郎／著 創元社 <481セ>
『生きもの毛事典』 保谷 彰彦／文 文一総合出版 <481ホ>
『いちばんの願い』 トーン・テレヘン／著 新潮社 <949テ>
『もしも人食いワニに噛まれたら!』 福田 雄介／著 青春出版社 <487フ>
『ライチョウ、翔んだ。』 近藤 幸夫／著 集英社インターナショナル <488コ>
『おいでよ!パンダ沼への招待状』 今泉 忠明／監修 世界文化ブックス <489オ>
『ワンダードッグ人に寄り添う犬たち』 モーリーン・マウラー／著 緑書房 <490マ>
『漢文世界のいきものたち』 高芝 麻子／著 大修館書店 <920タ>
『オールド・ポッサムの抜け目なき猫たちの詩集』 T.S.エリオット／詩 球形工房 <931エ>
『動物農場』 ジョージ・オーウェル／著 パイインターナショナル <933オ>
『キツネとわたし』 キャサリン・レイヴン／著 早川書房 <936レ>
『まぼろしの馬』 イサク・ディネセン／著 東宣出版 <949テ>
『外来生物のきもち』 大島 健夫／著 メイツユニバーサルコンテンツ <468オ>



「うさぎ美味しい？」

唱歌「ふるさと」では「うさぎ追いし かの山 小鮒釣りし かの川」で始まります。子どもの頃は、うさぎを食べると美味しいのかと思った人も多いのではないのでしょうか？

ところで『松代町史』を読むと、江戸時代の片岡志道という松代藩士が当時の人々の食生活についてこんなことを書き残しています。

「熊、猪、猿、鹿、貂(てん)などの肉を食するものは稀なり。上等の人は決してしない。これを食するものを賤しんだ。もつとも兎は食した。」

武士階級や僧侶などは、仏教の教えもあり四つ足の動物を食べることは殺生と考えられて禁じられたようです。それでもウサギは食べたというのはビックリしました。ウサギを数えるときには鳥のように1羽2羽と言いますが、ウサギはとび跳ねるから鳥に近いとして、鳥ならば食べていいと考えたのでしょうか。

江戸時代の後期 1823 年には松代藩主が真田幸貫(ゆきつら)となりました。この殿様は松平定信の次男で江戸からやって来ました。幸貫は狩りに出かけては猪や鹿を銃で仕留め、それを城に持ち帰ると肉を料理して食べました。さらにお供の人たちにも食べさせたということで、だんだん松代城下の武家の間でも動物の肉を食べるようになったと先の片岡志道が書いています。また幸貫は松代の領内にシジミがないことを残念に思い、諏訪湖からシジミを取寄せて領内の川に放流させました。佐久間象山もそれを行いました。それにより松代ではシジミが食べられるようになりました。今でも川にはシジミの貝殻が見られます。

現代ではウサギを野山で見かけることもなく、まして食べることもなくなりました。しかし猪や熊は現代では里山や市街地に現れることが多く、害獣と呼ばれ深刻な問題としてニュースになっています。時代ごとに人間と動物との関係は違ってくるものですね。

参考資料:『松代町史』下巻 大平 喜間多/編纂



寄稿:ひよこ豆

2026年3月

2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		



南部図書館
開館カレンダー



開館時間: 午前10時~午後6時

■は休館日です